

ヤプリー、創業13年で提供アプリが累計3億ダウンロードを突破

～企業アプリは、販促ツールから「日常接点」へ
小売・飲食・アパレルから自治体・病院・従業員向けまで。
企業と人をつなぐ「スマホアプリ体験」が広がる～



株式会社ヤプリー（本社：東京都港区、代表取締役：庵原 保文、以下「ヤプリー」）は、ノーコードアプリ開発プラットフォーム「Yappli」で開発・運用支援するアプリの累計ダウンロード数が、3億ダウンロードを突破したことをお知らせします。

創業から1億ダウンロード達成には約9年を要したのに対し、直近の2億から3億の到達はわずか1年10カ月と、増加ペースは過去最速を記録しています。

この成長は、単なる導入企業数の拡大によるものではありません。生活者にとって企業アプリが日常の接点となり、企業にとってもマーケティングや組織運営を支えるインフラへと役割を広げ、市場の変化を映し出しています。

本リリースでは、この3億ダウンロードという節目を機に、アプリが「日常接点」へと変化した背景をデータとともにご紹介します。

■創業13年で累計3億ダウンロード。Yappli提供アプリの成長が加速



ヤプリアは2013年の創業以来、「Yappli」を通じて、950を超える企業のアプリ開発・運用を支援してきました。2022年に1億、2024年に2億と大台を突破してきた累計ダウンロード数は、その成長スピードをさらに加速させています。

その背景には、生活者の日常行動（衣・食・住）に最も近い領域でのアプリの役割が、来店時に利用するものから日常的に利用されるものへと広がったことが挙げられます。日本のスマートフォンユーザー（※1）1人あたり約2.5個のYappli製アプリが利用されている計算となり、月間アクティブユーザー（MAU）は4,400万人、年間アプリ閲覧時間は約1億1,200万時間に達しています。

とりわけ直近の成長を牽引したのは「飲食（外食・テイクアウト）」領域です。これまで紙のポイントカードの電子化として使われることが多かった外食アプリは、この数年でレジ前で使う機能に加え、モバイルオーダーや決済までアプリ内で完結する体験へと進化しました。

実際に、直近1億ダウンロード増加分のうち約3分の1を飲食領域が占めており、生活者の毎日の食事に深く溶け込んでいます。

なお、累計3億ダウンロードという規模は、企業アプリが一部の業界や特定用途にとどまらず、企業が「つながる接点」として生活者や従業員と新たな関係性を深く築く手段に用いられていることを物語っています。

※1：総務省「通信利用動向調査」より

■生活者にとって、アプリはすでに「日常の中心」に

かつて企業アプリは、店舗来店時のクーポンや会員証を提示するために利用されることが一般的でした。近年では、注文や予約、情報配信に加え、チェックイン、クイズ、くじ、歩数計、限定コンテンツなど、毎日開きたくなるアプリ独自の体験機能が劇的に増えています。

さらにマーケティング領域では、マーケティングオートメーションをはじめ、CDPの活用が進み、一人ひとりに最適化されたCRMアプローチやキャンペーンのパーソナライズ機能が標準化されています。これにより、アプリはレジ前で提示するだけの販促ツールから、ブランドとお客さまが日常的に繋がる「ファン化の基盤」へと役割を変えました。アプリが担う役割範囲は「来店前の情報収集」から「来店中の接客体験」「来店後の再接点づくり」まで、生活者の日常行動全体へと広がっています。

このようなアプリの役割の広がりを後押ししているのが、生活者における「アプリ利用体験の成熟」です。アプリ市場分析サービス「App Ape」とYappliの共同調査（※2）によると、生活者は1日平均アプリを130回起動し、その利用時間は5.1時間にもものぼることが分かっています。



※2：App Ape × Yappli 「アプリ共同市場調査レポート」より

■小売・飲食から病院・従業員向けまで「企業と人をつなぐアプリ体験」が拡大



Yappliの活用領域は、小売・飲食・アパレル・化粧品・商業施設・メーカーといった生活者向けの領域にとどまらず、自治体・病院・学校・金融といった専門機関へと広がっています。地域住民への情報発信、患者との接点づくり、学校関係者への情報共有、金融機関における顧客サービスの強化など、スマホアプリ体験が根付く業種・シーンは年々多様化しています。

さらに近年は、従業員との接点づくりにも活用が進んでいます。従業員向けアプリ「UNITE by Yappli」は、メールや社内ポータルでは情報が届きにくい現場のノンデスクワーカーを含む約100万人に利用されており、情報共有とエンゲージメント向上の基盤として機能しています。

「販促ツール」として始まった企業アプリは今、顧客・従業員・地域住民・会員・ファンなど、企業を取り巻くすべての人々との継続的な接点を支えるインフラへと、その役割を広げています。

■アプリの枠を超え、体験を統合する「ワンプラットフォーム」へ

「アプリのヤプリ」から、WebやLINEを含めたあらゆる顧客接点を一つの基盤でつなぐ「ワンプラットフォーム」へ。ヤプリは、次世代Web構築「Yappli WebX」、LINE上で手軽な顧客接点を創出する「Yappli MiniApp」、飲食店の注文・決済体験をLINE上で最適化する「Yappli MobileOrder」などの提供に加え、ECやCRM、POSなど外部システムとのデータ連携を強化しています。

これにより、企業は個別開発に依存することなく、アプリ・Web・LINEを横断した一貫性のあるデジタル体験を提供できるようになります。ヤプリはこれからも、企業と人とのあらゆる接点をつなぎ、ビジネスの可能性を広げるワンプラットフォームとして、より豊かなデジタル体験の実現に貢献してまいります。

■株式会社ヤプリア 代表取締役 庵原 保文 コメント

このたび、Yappliで開発・運用するアプリの累計ダウンロード数が3億を突破しました。日頃よりYappliをご活用いただき企業・団体の皆さまに、心より感謝申し上げます。2013年の創業以来、私たちは「デジタルを簡単に、社会を豊かに」を掲げてきました。当時、自社アプリを持てるのは一部の企業に限られ、それを誰もが使える形にしたいと考え事業を始めました。

いまやYappliで作られるアプリの用途は、企業の販促だけにとどまりません。スポーツチームのファンとの接点づくり、学校や自治体の情報発信、そして近年勢いよく伸びている働く人々を支える取り組みまで、業界や用途の壁を越えて広がっています。3億ダウンロードの突破は、アプリが多様な現場の課題解決を担い、生活や仕事に根づいた証だと捉えています。

これからのヤプリアは、アプリを基点にウェブやLINEへと接点を広げ、開発・運用・分析のすべてにAIを取り入れていきます。デジタルをより簡単に、社会をより豊かに。アプリを軸に、デジタル体験を磨き続け、企業とその先の人々の毎日を豊かにしていきます。

■株式会社ヤプリアについて

株式会社ヤプリアは、「デジタルを簡単に、社会を豊かに」をミッションに、企業と顧客・従業員の体験をつなぎ、価値を高めるワンプラットフォームを提供しています。ノーコードアプリ開発プラットフォーム「Yappli」をはじめ、次世代Web構築「Yappli WebX」、LINEミニアプリ開発「Yappli MiniApp」、モバイルオーダー「Yappli MobileOrder」を展開しており、累計1,100社以上に導入されています。

- Yappli : <https://yapp.li/>
- Yappli WebX : <https://webx.sites.yappli.com/>
- Yappli MiniApp : <https://miniapp.yapp.li/>
- Yappli MobileOrder : <https://yappli-fc.co.jp/>
- UNITE by Yappli : <https://unite.yapp.li/>

本社 : 東京都港区六本木3-2-1 住友不動産六本木グランドタワー41階

エリア支社 : グランフロント大阪北館8階（大阪）
ONE FUKUOKA BLDG. 7階（福岡）

代表者 : 代表取締役 庵原 保文

事業内容 : 「Yappli」「Yappli WebX」「Yappli MiniApp」「Yappli MobileOrder」の開発・提供

URL : <https://yappli.co.jp>

【本件に関するお問い合わせ】

株式会社ヤプリア 広報

メール : pr@yappli.co.jp